みのわ未来委員会（第２０回）会議要録

日時：平成 31 年 1 月 31 日 16 時 00 分～18 時 20 分
会場：箕輪町役場　３階　講堂
参加者：みのわ未来委員会委員 12 人
　　町長、副町長、事務局３人（企画振興課）
傍聴人数：０人
報道機関：２人

１　開　会　（毛利企画振興課長）

２　町長あいさつ　（白鳥政徳町長）

３　協議事項　（進行　小口会長）
（１）第５次振興計画の進捗と評価について
　　※資料１、１－２、１－３にもとづき事務局から説明

小口会長）
　説明のあった第５次振興計画の 2017 年度の実績と評価について、お 1 人ずつご意見等を伺いたい。

浦野委員）
　全般的に順調のようだが、特に人口をどう維持していくかが最終的な政策目標として大事。また、町に住むことの満足度、若い人達の住み続けたいという評価、その辺りが重要ポイントになるかと思う。チャレンジ目標②「将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持」の取り組みの内部評価が「努力が必要」となっている。冒頭の町長あいさつでも人口については景気動向が影響し維持はしているが、まだ状況は厳しく努力が必要との話があった。転入者についてなぜ箕輪に来たのか、という社会増の要因は分析しているか。

白鳥町長）
　全体の社会増減の動きはここ２年程大きい。±800 人～900 人動いていたが、ここのところ 1,000 人を超え動きが激しいと感じている。ひとえに経済状況だけではなく、人材不足により企業が雇用する動きが大きく影響しているのではないかと考えている。工場等の用地取得や設備投資等もかなり大きくなっている。それらが社会増の一番大きな要因とみている。また、リーマンショック以降離れた外国人が、全て戻ってきてはいないが動き始めている。加えて、移住定住対策の中で、若者世帯の住宅取得に対する支援を実施している。他の自治体も同様の施策を行っているため大きな差が出るとは思えないが、若い世代の人の動きが出ているとみている。今年度も若者世帯（40）歳以下の支援制度について、50 件弱の実績がある。県外転出の要因の多くは、就職、結婚である。郡内の動きは結婚が多い。

郡内の仕事や住宅取得による移動もある。女性の結婚の機会だけではなく、仕事や住宅取得の動きもターゲットにしていかないと人口減少を止めるのは難しいと思っている。年齢構成的に亡くなる方が多く、昨年約 280 人が亡くなり、今年も同じペースである。生まれる方は 180～200 人の間。200 人に近づけないといけない。その差を補い、さらにプラスにするのはかなり難しい。一番の課題は、ＵＩターンが少ないこと。上伊那郡内での動きは 10 代以下に多い。ということは住宅取得をして若者世帯が郡内で動いているとみられる。こういった動きを押さえた事業を来年以降検討したい。

浦野委員）

箕輪町に定住する人をいかに増やすか、そこが一番のカギになるという理解で良いか。

白鳥町長）

まずは移住してもらうことを目標としている。移住より前、町と交流・関係する流れを作った上で移住してもらう。移住後、いかに定住してもらうかも大事だが、その点の体制がまだ整っていない部分もある。受け入れ体制が良くなく転出してしまったり、仕事の異動とともに住宅まで異動してしまうなどもある。転勤しても箕輪に住み続けてもらうよう、生活の満足度を上げていきたいが、まだ出来ていないと感じている。満足度を上げ、定住に結び付けることが大事だと考えている。

小松委員）

（資料１-２）アンケート結果を見ると、高齢になるにつれて「買い物など日常生活に不便を感じる」との回答が多い。そんな中で知人が「にこやか号」を利用していたが、運営をやめることになり、買い物が不便になるとの話を聞いた。そういった方々への対策を考えているか。

白鳥町長）

箕輪町の全体を見ると、若者や車を持っている世帯については買い物に対する利便性は悪いとは思っていない。他の地域と比べても、日常生活に対応できる商店、スーパー等は散在している。交通弱者や移動が難しい方々に対する買い物支援、通院等の支援をどの程度するかが課題である。通院や入浴に対する支援は、みのちゃんバスの利用補助以外も増えている。買い物については、スーパーまで行く買い物と、一定の場所に集まってする買い物と、自分のところ・自宅まで届けてもらう買い物等、いくつか手法がある。今の高齢化状況の中で何を選択すべきか。今まで、(有)泰成運輸にお願いし、移動販売をしていただいていた。他にも、ＪＡやスーパーがある。今回「にこやか号」を一旦休止し、どの程度需要があるかをもう一度確かめ、検討したい。(有)泰成運輸があれだけ取り組んでいただいたが、なかなか需要が増えないという面もあり、まだ高齢化がそこまで行きついていないとのではないか。困っている人もいるが、全体的にみると支援の仕組みを作って動かすまでの需要度はまだ高まっていないと感じている。その点を再度検討した上で、行政・民間含めて施策を考えなければならない。まだまだ親族に買い物に連れて行ってもらえる、同居はしていないが週数回通ってくれる親族がいる方が多いのが現状とみている。いつの時点で支援していくかは検討していく。(有)泰成運輸にもまた協力をお願いしたい。

小松委員）
　新聞等で中学生のフィギュアスケート選手や、小学生・中学生の合唱のダブル受賞など、子ども達の活躍が目に留まり非常に良いと思う。そういった子ども達の育成、応援の取組みについてどのように考えているか。

白鳥町長）
　教育委員会で考える部分でもあるが、様々な形の支援があり、学校教育の中で支援すること、それとは別で、競技や社会教育の分野など。特定の人については学校教育の中だけでは対応しづらいものがある。子ども達、児童生徒の頑張る姿が町民に与える影響は大きい。非常にインパクトがあり、町の発信力にもなっている。行政的な支援も入れていく必要はあると感じている。

髙橋委員）
　（資料１）「11.移住・定住促進チャレンジ」の取り組みの中で、移住定住相談員が設置されているようだが、具体的にどの程度アクセスがあり、移住する方が主にどのような事を聞いてくるのか、質問の内容等を分析しているようなら教えていただきたい。

事務局）
　性格なデータ等は手元にないが、移住定住相談員への相談は、空き家の問い合わせや移住体験住宅への問い合わせが多くある。

毛利企画振興課長）
　H29 年度の実績で、空き家関係の相談者数は、所有の空き家管理の相談 7 件、空き家物件探し・移住希望者の相談 51 件、町民の空き家物件探しの相談 19 件であった。物件所有者は町外在住だが、空いているため活用したいといような相談が 23 件あり、対応した。

髙橋委員）
　移住定住相談員は基本的には、空き家や住まいの支援をしていると解釈したが、移住する上で生活環境や付随する事を検討するためのデータ等はあるか。

毛利企画振興課長）
　相談を受けた際に、それぞれの地区の説明や区費・常会等の地域の仕組みについては案内している。

白鳥町長）
　移住をするまでが今までの移住施策であった。移住した後、いかに定住につなげるか、移住してきた方をフォローしていくかが課題。フォローされるのが嫌だという人もいるため、行政がどのようにフォローしていくか検討が必要である。来年度以降、移住定住相談窓口を役場庁舎の１階に移したいと考えている。また、移住者のその後のフォローをするためには、協議会のようなものをつくり、課題や問題点、行政や地域への要望等をいかに具体的なものとして扱っていくかが重要となる。できれば里親みたいな、面倒をみてくれ

る人、ボランティアのような体制を整えることも考えている。

中村委員）
　移住してきた方が感じる箕輪町の魅力や、居続ける理由等は調査されているか。

白鳥町長）
　理由までは承知していない。髙橋委員のようにこういった委員会等でお付き合いのある方ではない、一般のサラリーマンのような方は、移住後に話を聞くようなことは出来ていない。地域との交わりや関わりが出来ていないようにも感じるので、地域の中で長く暮らしたり子どもを育てるうえで疎外感があってはいけない。状況の把握をし、どのようなことが出来るか考えるところに来ている。

山中委員）
　（資料 1）2 枚目、「支え合い、健やかに心豊かに暮らせるまち」の取り組み実績の「健康寿命」が未公表ということだが、これは公表されないと評価ができないということになるかと思うが、今後公表される目途はあるのか。

毛利企画振興課長）
　県が公表した健康寿命については、県が独自に算出し、市町村に提供されたものである。今後、市町村毎の健康寿命の算出、公表の予定はないとのこと。当時県が算出したデータを提供してもらい、町で独自に活用出来るかを検討している。それが活用出来れば良いが、出来なければ別の算出方法や指標を検討する必要がある。

山中委員）
　指標を柔軟に変えていかなければならないと思う。２年続けて評価ができていない項目もあるため、指標の変更も前向きに検討していかなければならない。

事務局）
　振興計画や総合戦略等の評価指標については、毎年データが出ない指標があるなど、今後見直しが必要と考えている。計画の中間見直し、改訂のタイミングで見直していきたいと考えている。

重盛委員）
　（資料１）「商工業活性化チャレンジ」の中で、「未来を担う若者正規雇用支援事業」のとあるが、どのような支援か。

事務局）
　町内の企業に対し、若い人を積極的に雇用してもらうよう、25 歳以下の若者を正規雇用した場合に助成するという事業。助成額は 1 人雇用につき 10 万円である。

白鳥町長）
　今ほど人手不足になる前にはじめた施策である。現在は雇用したくても人がいないという状況。ここ２年程で雇用状況がかなり変化しているため、どこに施策の重点をおくのか、雇用側にするのか、雇用される側（若者）にするのか、どういった施策を打つのかが課題である。この事業は３年目になるが、企業に若い人を正規雇用して欲しいというのが目的である。

小口会長）
　この事業は今も続いているのか。

白鳥会長）
　今も続いているが、現状をみると、就職する若い学生や都会で就職している若者に積極的にアプローチをかけ、箕輪町に来てもらうようなサポートをする方が良いのではないか、というように状況が少し変わってきている。この事業はいずれ見直しをしなければならないと思っている。

小口会長）
　補助金活用に関する具体的な実績データはないか。

白鳥会長）
　具体的なデータは手元にないが、それほど実績はない。

重盛委員）
　（資料１）「住みやすい都市基盤をみんなでつくるまち」の住宅の新築戸数が 83 戸という実績になっているが、空き家の件数はどのくらいあるのか。

白鳥町長）
　空き家は、使える空き家が約 380 戸、３～４年前は約 420 戸だったが、だいぶ動き約 380 戸程度になった。その空き家の中には、年に数回管理のみしているものも含まれており、なかなか手放してくれず不動産物件としての空き家の数が増えない。空き家をぜひ活用したいと思っている。10 年、15 年程度の空き家は不動産屋が対応する。行政は、それよりも年数の経ったような空き家の活用に取り組んでおり、土地付きで 500 万円～1,000 万円で購入できる物件もある。そういった物件を希望する方はかなり多い。他の地域は空き家があって困っているが、箕輪町の場合は空き家が無くて困っている。ただ、街中の物件ではなく、周辺部の方が希望者にとって魅力がある。

那須野委員）
　（資料１－２）住民満足度調査の回答で、20 代 30 代の不満の理由として、「子育てに対する支援が充実していない」が３位以内に入っている。40 代では満足の理由の３位に入っているが、一番の子育て世代と思われる 20 代 30 代が不満に思っているとうことがアンケート結果からわかる。また、17 歳町民意識・生活実態調査では、「町外で暮らしたい理由」の

回答で、「地元では高校卒業後の進学先が不足しているため」が１番多い。前年度に比べると減っているが、実際、高校卒業後に町外へ出ていく人がどのように変化しているのか調査分析をしているようであれば教えていただきたい。さらに気になるのは、女性の「地元では交友関係、出会いの機会が少ないため」という回答や、「町内では、生活環境が望ましくないため」という回答で、先ほどの満足度調査の 20 代 30 代の不満の理由と近いような意見だと思うので、改善策等があれば教えていただきたい。

白鳥町長）

子育てについては色々な考え方があり、子育ての入口の出産から保育園までの子育て環境は他の市町村に比べて劣っていることは無いと考えている。子ども達を遊ばせるための公園等が少ない、保育料についての格差等について言われることが多い。近隣の市町村の子育て環境と比べて、イメージ的に言われる部分はあるが、具体的に〇〇が足りないということは認識していない。町の取り組みについてもう少し発信し、理解をしてもらうことの方が必要だと思っている。例えば、出産のお祝い金について、当町でも実施しているが、２万円はだめで 10 万円なら良いというような問題ではないと思っている。違ったところで箕輪町の良さを出していきたい。

昨年の 17 歳町民意識・生活実態調査については、異例の数値が出ており、よくわからない部分もある。「地元では交友関係、出会いの機会が少ないため」「町内では、生活環境が望ましくないため」等の回答数は少ないが散見される。あまり分析できていないが改めて分析検討していきたい。若者が外に出やすく、女性が活躍できるような町にしていきたいと考え仕掛けをしているが、まだ追いついていない。

矢島委員）

今回の外部評価は多数の事業をまとめて１つの評価をするようになっているが、個別の事業評価はしているのか。

白鳥町長）

政策評価は実施しているが、ＫＰＩ（重要業績評価指標）を設けてやってはいない。いくつも目標を作って評価しても仕方がないので、全体をフォーカスするような指標を作り、それに追い込んでいくといくのが今回の評価の仕組みになっている。

矢島委員）

例えば結婚支援事業であれば、だいだい何件くらいで予算をつけるとか、予算編成上の目途というものもあるのか伺いたい。その目途に対し、どの程度達成できたのかの評価はあるのか。今回の資料において、例えば（資料１）チャレンジ目標②の各取組みの内部評価は「努力が必要」となっているが、一層努力が必要な事業はどれなのか、事業の中でも良く出来た点、出来なかった点を評価が出来るような事業単位の評価はあるのか。

白鳥町長）

予算編成前に、個別の事業については実施状況や成果の確認をしている。町でやる政策を評価することについて、最終的に人口増にどのように繋げていくかという点については

まだ出来ていないと思う。ただ、個別の事業評価はしているが政策評価まで至っていないと理解いただきたい。行政の場合は前年踏襲となりがちのため、常にそういったチェックはし、不要なものは削除していく。

矢島委員）
　委員は個別事業の達成状況、実績データを知りたいと思うので、数十件の事業の目標や実績等の提示は難しいと思うが、可能な範囲で個別事業状況についても若干資料を示していただければ何が出来るのか考えやすい。

白鳥町長）
　わかりました。

柴委員）
　箕輪の魅力はなんですか？と考えた時、町長が良く言う、「ほどほどの田舎で住みやすい」というのがまず出てくると思う。定住してもらうということは、歳をとってからも住みやすい町だということに関係すると思う。企業として、求人を出しても人が来ない、人手不足の問題は多々ある。外から人を呼ばなければ人は増えない。郡内で行き来していても変わらない。本気で郡外から人を集めようという気にならないとだめではないか。商工会や各企業に協力を依頼し、求人を出す際は箕輪の魅力や施策の情報を一緒に入れてもらい、住みやすさをＰＲすることが必要だと思う。
　高齢の方を約 10 年見てきたが、寂しさ、孤独等で認知症になった人を多く見た。また、子育て中のお母さん達も相談や話が出来ずに困っている人がいると思う。場面は違えど、話や相談が出来る場をものすごく求めている。その意見を吸い上げる組織というものが欲しい。

白鳥町長）
　おっしゃるとおり。具体的な施策としてやってはどうかとの提案だと思う。箕輪にも子育て支援センター等もあるが十分だとは思っていない。高齢者が外に出て活動する場としてのサロンや百歳体操もあるが・・・。サロンについては取り組み始めから３年経ち、約三十数ヵ所で実施しており、だんだん取り組みが進んではいる。しかし、行政からやるのではなく地域の中で盛り上がり、安定的に活動してくれる方が増えていくことも大事。地域の盛り上がりを私達行政が支援する、という形が一番良いと思っている。
　外から人を集めるというのは、ただ集めれば良いというものではない。地域を作っているのは住んでいる皆さん。皆さんが責任を持って地域づくりに対応してもらう、というのが第一。そこで足りない人材等を補うのは転入者を増やすということだと思う。おっしゃるとおり商工会等と協力するなど、様々なやり方があると思う。

柴委員）
　吸い上げる組織についても考えていただきたい。移住定住相談員がいるが、困りごと相談のような、即座に答えてもらえるような組織があると良いと思うがいかがか。

白鳥町長）
　縦割行政でやり取りがあちこちになる、ということは以前に比べると少なくなっているとは思うが、まだある。どこかで統括する窓口、併せて情報や苦情や相談を全ての職員が対応できるような形にしていくべきと考えている。１つの情報を役場の中全体で把握していく手法が必要。相談窓口を１つ作るということが効果的かどうかについてはまた検討させていただきたい。

市瀬副会長）
　矢島委員もおっしゃっていたが、全体感の中でそれぞれのチャレンジ目標や基本計画の中で、この事業は上手くいっていて評価につながる、というような説明があると良い。新規で始めた事業において、上手くいっているかどうかを知りたい。個別の事業の説明は難しいだろうが、全体で上手くいっている事業、そうでない事業について分析していれば伺いたい。また、（資料１）基本計画の６番目の「学び合い、共に育てるふるさとのまち」の若年者の町内暮らし希望率の実績値がだいぶ下がっているが、要因等は分析していれば伺いたい。

白鳥町長）
　おっしゃることはよくわかるが、個別事業のそれぞれの実績値と評価が、最終的な政策としての目標に直接つながらないため、難しい。それぞれ事業評価をしているため、また改めて、それぞれの事業の成果等についてお示ししたい。また、最終的な大きな計画の中で出している目標値に向かっているかについてご検討いただきたい。
　17 歳の調査を１月の受験の時期に実施したため、回収率が悪く、良い数字が出てないように感じている。思った以上に悪いデータだった。中学生の箕輪町に対する満足度や愛着度はもっと高い数値が出る。中学生の時は愛着度が高く、高校生になると低くなる。この差をいかに縮めるか、外に出る時の愛着度を高める必要があると考えている。高校教育の問題と、町の教育、発信と両方合わせないといけない。町も取り組むが、県レベルで信州に対するまたは地域に対する愛着度を上げていかないと、数値をあげることは難しい。

野澤委員）
　（資料１－２）満足度調査の有効回答数 590 人とあるが、年代別の回答割合はどのようになっているか。

事務局）
　回答者が 1 番多い年代は 60 代で 25％、次が 70 歳以上で 21.5％、一番少ないのが 20 代で 7.5％です。1,000 人無作為抽出しているが、町民の年齢構成上、高齢者の割合が高くなっている。

野澤委員）
　基本計画や町の計画に対し、若い世代を取り組むために町として工夫があれば教えていただきたい。関心があるのが高齢者だけでなく、こういった施策に対し若者にどう関心を持ってもらうかというのは町として考えはあるか。

白鳥町長）
　若者や女性が一番の課題だと思っている。若者・女性活躍推進係をつくり、まず女性の取り組みから始めることにした。女性の社会参加と行政参加を進めないと全体としてのバランスが崩れるため、まず女性から始めた。もう一つの課題は若者で、特に 20 代～30 代の若者の行政や地域への参加割合が低い。参加する人が決まっており、それ以外の人は生活や子育てが中心になっており、地域への出が少ないというのが決定的な課題となっている。ただ、これは非常に難しい問題。その状況の若者を地域へ飛び出させる上手い手立てがない。良い案があれば教えていただきたい。女性の方がやるべきことがある。若者は子育てや自分の家族中心で動いており、地域のことは自分の父親や母親にやってもらっていることが多い。その点を改善しなければ施策を打っても結果がついてこない。今後も研究する。

野澤委員）
　私自身もそんなに良いアイディアがない。もう 1 点、要望ではないが、同窓会の補助金は箕輪町にあるか。

白鳥町長）
　今はやっていない。来年度から始める予定。

野澤委員）
　私は今年 40 歳で、ダブル成人式ではないが、同窓会を計画している。そういう補助金も増えると良い。１回でもみんなで集まると、町に対する愛着等が改めて芽生えることもあると思うので、もし取り組んでいただけるならやっていただきたい。

白鳥町長）
　どういった制度設計にするかはこれからだが、都会の人が箕輪町に帰って来る、同窓会等様々な会のきっかけになればと検討を進めている。

小口会長）
　様々なご意見ありがとうございました。その他、ご意見等があれば伺いたい。

小松委員）
　子どもの遊具をもっと増やしていくことをお考えいただいているようですが、砂場はどうして無いのか。小さい子どもを遊ばせられる遊び場を作っていただいていると思うが、砂場が無い。もし出来れば、砂場や遊び場の日除け設置も検討していただきたい。

白鳥町長）
　ご意見ありがとうございます。検討させていただく。

小口会長）
　外部評価をまとめたいが、矢澤委員から評価できないような設定指標があるため、いずれ見直しをしていかなければならない等のご意見もありました。その点を検討いただく上

で、今回の内部評価を良としたいがいかがよろしいか。

≪委員の同意≫

（２）まち・ひと・しごと総合戦略の進捗と評価について
※資料２にもとづき事務局から説明

小口委員）
ただいまの説明について、ご意見等伺いたい。

柴委員）
出産子育てへの支援として、「みのむしアプリ」があるとのことですが、知らない人が沢山いる。母子手帳の交付と一緒にアナウンスする等するともっと利用者が増えるのではないか。若いお母さん達には必要な情報がいっぱいあると思うので、アナウンスの機会も工夫すると良いと思う。　※後日、提案どおり取り組んでいることを確認

事務局）
ありがとうございます。「みのむし」は 2016 年に導入、年度後半に導入したため初年度の登録者は 93 件、2017 年は 499 件。周知活動については文化センターで子育て世代が実行委員となり取り組んでいるイベント等でも宣伝しているとのこと。母子手帳交付の際に周知しているかどうかは承知していないが、そういった提案があった旨を担当課へ伝える。

矢島委員）
移住定住促進について、移住して来られる方にとって、当町に仕事があるかどうか、就業能力を満たせるかどうかが大きな問題になると思う。移住定住者の相談対応の中で、町内の求人情報の提供はどのようにしているのか。

事務局）
移住定住相談員は就業相談員も兼ねている。移住希望者へは周辺の求人や空き家の情報提供を同時に行っている。

矢島委員）
求人情報とは、職業安定所の情報か。

事務局）
そうです。職業安定所の情報に加え、そういったところに出ていないような分野の情報についても、相談員が集めた情報を提供している。

矢島委員）
法律の問題もあり難しい点もあるかと思うが、町内企業で求人難に喘いでいる企業は沢山ある。例えば、町内の企業に求人情報の提供を呼びかけてもらえれば、提供すると思う。

移住者向けの求人情報等、企業としても協力する。
　昼夜間人口比率について、町長の話にもあったが、企業の求人難の中で、状況が変わっていきている。指標がこれで良いのかどうか、どのようにお考えか。

白鳥町長）
　昼夜間人口比率は、例えば伊那市は 1.05 という数字である。学生がいたり役所があったり、大きな団体があるため、昼間人がいるのは当たり前のことだが、1.05 でしかない。箕輪町は外に通勤する人は多いが、中に入ってくる人は少ない。そんな中で 1.0 を維持したいというのが目標。維持していたが、平成 27 年度はだいぶ外に出て行った動きのある年だった。昼夜間人口比率は国調でしか調べようがないため、もう少し違った指標を作り、町内の働き手がどこから入っているか分かる代替え指標が欲しいと思っている。見直しを検討する。
　移住者の求人について、町で一般の方のハローワークは出来ないが、移住者に関わるハローワークは全て出来るようになっている。もし御社で求人情報を提供いただければありがたい。移住者の多くは、仕事も大事だが移住すること自体がまず大事、という人が多い。仕事は行ってから考えるという人も多い。職業案内の資格も取ったが、なかなかうまく使われていない。各企業の情報もあればありがたい。

矢島委員）
　移住定住者をたくさん募り、実績をあげてらっしゃるが、働き場所について町内だけではなく、伊那市等近隣市町村、住んでいるのは箕輪町、という人もいる。移住定住に力を入れるが、働き先はもう少し広く、ということも考えられるかと思う。その点については、両方とも生命線ということでよろしいか。

白鳥町長）
　ＵＩターンを進めるにあたり、住んで働くを全て箕輪町というのは難しいと思っている。少なくても働き場所は上伊那広域で、できれば箕輪町に住んで欲しいと思っている。矢島委員のおっしゃるとおり。働き場所についても、箕輪町は製造業が多くあるので、そこを吸収したいという思いも一方である。

小口委員）
　その他、ご意見等あれば伺いたい。

浦野委員）
　（資料２）転入者した６４名の方は、どのような仕事をしているのか。働き先をつくる施策も重要だが、農業関係や自営業などの起業や、飲食関係を支援する施策はあるのか。

白鳥町長）
　去年まで実施していた施策に、「頑張る商店応援事業」というものがあった。大変厳しい状況の中頑張っていて、改修等をすればまた新しく事業展開が出来るという方への支援で、３年間で約 75 件実施した。その中に、起業創業する方も入っている。一補助事業は何年も

継続するのはいかがなものかと思っているため、３年で休止したが、支援は必要だと思っている。住民満足度調査の結果等では、飲食店やアミューズメントに関わる希望が多い。既存のお店に影響を及ぼしてはいけないが、行政が支援するべきかの検討も踏まえ、商業、アミューズメント系への支援について考えていきたい。

浦野委員）
　評価指標について、他の委員からも指摘があったが、目標値の設定とその評価方法がわからない。ＫＰＩ（重要業績評価指標）の設定が難しいのは十分わかるが、これだけでは我々も評価しづらい。（資料２）「新分野開拓支援事業」で、１つの指標はにこりこの「農産物出荷額」3,000 万円、一方は郡内の「製造品出荷額順位」で、これらを並べてどのように評価したら良いかわからない。

白鳥町長）
　おっしゃるとおり。総合戦略については、平成 27 年の 9 月 10 月に、国の指示で短期間で作成しなければならなかったため、あまり整合性が無い部分もある。当時、製品出荷額については郡内１位を維持しよう、ということで目標を設定したが、本来であれば、〇〇〇億円のような具体的な出荷額を設定すれば良かった、と今になればわかる。農産物の出荷額についても、今では町内産の農産物生産額が出るが、当時は市町村別のデータが公表されていなかった。そういった点の見直しは今後検討していく。

髙橋委員）
　（資料２）「ひと味違うみのわの子ども育成事業」、について、目標値がプログラム数になっているが、この取り組みは実際に必要で有意義なプログラムだと思う。ただ、保育園で終わってしまうのではもったいない。小学校に上がりさらにこれを個性的に箕輪町で伸ばせればと思う。次のプログラム編成や評価指標を、例えば小学校のスポーツテストに反映できるような、内容を進化、連動させられればなお良い。保育園と学校教育の行政は違うとは思うが、連動性があるとされに箕輪の子育て事業のＰＲ戦略にもなり、子ども達の成長が確かなものになると思う。評価しやすいよう、評価項目も検討してほしい。

白鳥町長）
　教育分野については、先進的に箕輪町でやってきた運動あそびやＩＣＴ等が本来の学校の指導要領に入ってしまった。町として施策を評価するには今のプログラムをやっていることだけではだめだと感じている。保育の現場では、運動遊び・英語遊び以外に外遊びみたいなものを評価として入れたいと思っている。それと、運動遊びについては小学校の体力テスト等にどのような影響が出てくるかは評価の段階で見ていきたい。それに基づき、カリキュラムを検討していく。

小口会長）
　色々なご意見をいただいた。指標の設定方法について指摘もあったが、町長から今後見直しを検討するとの話しがあったためそのように対応いただき、その上で、外部評価としては今回の内部評価を良としたいがよろしいか。

≪委員の同意≫

（３）地方創生関連事業の進捗と評価について
※資料３にもとづき事務局から説明

小口委員）
ただいまの説明について、ご意見等伺いたい。

浦野委員）
（資料３）「女性転入者数」の実績値が 18 人とあるが、これは結婚か就職か。

事務局）
住民基本台帳上での数値の異動のため、そこまで詳細はわかりません。

浦野委員）
そのデータでは、事業の効果を評価できないのではないか。評価できるよう見直した方が良い。

事務局）
検討します。

小口会長）
ご意見ありがとうございました。外部評価としては今回の内部評価を良としたいがいかがよろしいか。

≪委員の同意≫

（４）その他
※資料４にもとづき事務局から説明

小口会長）
熱心にご協議いただきありがとうございました。最後に、未来委員会の開催時期について、委員会で出た意見が事業の検討や予算編成に反映される時期に開催していただきたい。

事務局）わかりました。

５　閉会

18 時 20 分　終了